

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	2007年12月21日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ふれあいの丘 ( 鹿児島県 )
-------------------	----------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>竹下 公子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>松元 健作</u>
	ヒアリングを行った職員数          3名

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年12月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県第4676800172号		
法人名	有限会社 コンフィアンス		
事業所名	グループホーム ふれあいの丘		
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志1330番地 (電話) 0994-73-8113		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年1月26日

【情報提供票より】 (19年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	16人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	8	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	71歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	志布志中央クリニック ・ たんぼぼオーラルケアクリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、住宅地に立地し、同敷地内に有料老人ホームが併設され、協力病院も隣接している。管理者・職員は重要事項説明文書の冒頭にある言葉や基本理念に沿って支援しており、入居者はいつも笑顔で普通に暮らしている。職員は、認知症キャラバンメイトとして登録し地域住民への認知症の理解と啓発に取り組んでいる。ホーム内の研修や自分の親を介護した経験をケアサービスに活かし、入居者本位で笑いの絶えないホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域住民とは、散歩や買い物での挨拶やホーム主催の夏祭りや敬老会など交流に努めている。振興会への加入は、積極的に取り組んでいる。市担当者にホームの考えや現状を伝え、共にサービスの質向上に努めており、粘り強く改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全職員に伝え、ミーティング時に話し合い、自己評価を行なった。地域密着型サービスとしての課題について話し合い、積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は事業所からの報告だけではなく、参加メンバーから質問・意見・要望を受け、貴重な意見として継続して報告するなど、一つひとつ積み上げており、地域の協力やサービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、入居者の様子や金銭管理など報告している。ホーム便りは2ヵ月毎に発行し、行事の様子を写真で掲載し、職員の異動、健康状態等、面会時や電話で臨機応変に伝えている。説明文書に苦情・相談窓口を明記し、家族会開催時に意見や不満を聞く機会を設け、記録して検討を行い、前向きに活かしていく姿勢がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎日の散歩や買い物時、地域の人と挨拶を交わし、ホーム主催の夏祭りや敬老会に参加を呼びかけ交流している。運営推進会議に地域代表に参加してもらい、振興会への加入を積極的に働きかけ、地域住民へホームの役割や認知症の理解を深めるよう粘り強く取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松 成子 / 調査員 竹下 公子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「介護される人も、する人も共に生きられる地域社会を目指して」の理念を掲げ、地域密着型サービスとしての役割をめざした理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員に申し送り時やミーティングの時、理念に基づいた話やアドバイスをし、理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。職員採用時のオリエンテーションで理念を伝え、理解してもらえるよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩や買い物時、地域の人と挨拶を交わし、ホーム主催の夏祭りや敬老会の行事に地域の住民に参加を呼びかけ、交流することに努めている。振興会への加入は働きかけを行っており、地域交流を積極的に進めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、職員に関係した項目については、ミーティングの時など話し合い、自己評価を行なっている。前回評価の改善点については、積極的に地域や行政に啓発、連携に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に幅広い立場の人に参加を呼びかけ、地域の理解と支援を得るための貴重な機会として取り組んでいる。会議での意見を継続して報告するなど、一つひとつ積み上げており、地域の理解とケアの質の向上に活かしている。		

グループホームふれあいの丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者や管理者は市担当者に、事業所の考えや運営の実情等を報告している。運営推進会議に市担当者も参加しており、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料請求時に入居者の様子や金銭管理など報告している。ホーム便りは2ヶ月毎に発行し、行事の様子や職員の紹介など写真を掲載して送付している。定期受診は面会時に報告し、状態変化時はその都度連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に、苦情・相談窓口を明記し入居時に説明している。年1回は家族会を開催し、集まりの場で意見や不満を聞く機会を設けている。相談・苦情報告書を作成し、意見や苦情を前向きに活かしていく姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者・管理者は職員の異動による影響について認識し、離職を最小限度に抑える努力をしている。新採用の職員は、馴れる迄ベテラン職員と勤務するなど工夫している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の育成の重要性を認識し、計画的に全ての職員に研修を受講するようにしている。受講後は毎月の会議で報告し、他の職員とも共有している。事業所内の研修会も毎月行い、研修の機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入し、研修会や交流会に参加している。意見交換や研修の計画・実行等連携し、実施してサービスの質向上に取り組んでいる。		

グループホームふれあいの丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば本人・家族に見学してもらっている。病院からの入居者も必ず自宅訪問し、情報把握に努め、利用者の視点に立って支援し、ホームに徐々に馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対し家族に接するような思いで支援しており、買い物時の食材選びや利用者同士の助言の言葉などから学ぶ事が多い。配膳や片付けなど利用者の出来る事はしてもらい、感謝の言葉をかけるなど支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で一人ひとりの思いや希望を聞いている。思いや希望を表せない方は、家族に意見を聞き利用者の視点に立ち、把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向は、計画作成前の面会時等に聞き、主治医の意見や職員の意見・気づきを反映した、個別具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、評価を行い見直しを行っている。状態変化や本人・家族の希望があれば随時見直ししている。		

グループホームふれあいの丘


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合い、通院介助を支援している。命日やお盆など墓参りなどの移送サービスも支援し、外泊などの情報提供など柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの掛かりつけ医を主治医にしている方や、近くの協力病院を主治医にしている方など、本人や家族の希望する主治医から適切な医療を受けられるよう支援している。状態変化時は家族に連絡し、病院に同行してもらったり、話し合っ		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、事業所が対応できる最大のケアについて入居時や状況を見ながら本人や家族と話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねるようなことの無いよう、申し送りやミーティング・勉強会で徹底して話しており、入居者の尊厳と権利を守った、さりげない対応ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決めているが、起床、食事、入浴の時間、散歩など入居者のペースで過ごして貰っている。誕生日もその日、その人の好きな献立で祝うようにしている。		

グループホームふれあいの丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スーパーに毎日行き、入居者と、食材を見ながら旬の物やお得なものを買い物し、調理や盛り付けも手伝って貰っている。栄養士や調理師の資格をもつ職員もおり、食事に関する作業が楽しみや喜びになっている。外食も希望があれば出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回と決めているが、毎日沸かしており希望者はいつでも入浴できる。入浴を面倒がる入居者は、言葉かけやタイミングを工夫して入浴を支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の経験や力を発揮するようなおやつ作り・行事食や保存食を作って、張り合いや喜びのある日々を過ごせるような場面作りを支援している。飲酒や喫煙も家族と相談し、自分らしい暮らしを支えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や買い物、希望があればドライブや公園へ遠足に出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけないケアを普通のこととして、玄関は自由に出入りできるようにしている。転倒などリスクについては家族に理解を求め、職員が連携・協力し一緒にさりげなくついて行くなど、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は消防署の協力で昼夜設定で、避難訓練を実施している。防火管理の講習も受講して防火に努めている。災害時の水や食料品等、備品の備蓄も関連施設と協力し準備している。		

グループホームふれあいの丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望の献立を作っており、残食も少ない。水分量と食事摂取量もチェックし記録している。体重管理も行い、栄養士に献立のバランスもアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールにテーブルやこたつコーナー・ソファーを使いやすく配置し、台所の様子などが分かり、生活感があって家庭的な雰囲気である。季節の飾りや手作りの作品が飾られ、居心地よく過ごせる工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、衣装ケースなど利用者が使いやすいように配置し、家族の写真など飾り、その人らしく居心地よく暮らせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。